

中央ブロック海況予報

今後の見通し（2025年4月～7月）

(1) 黒潮（注：黒潮流型は図1を参照のこと）

◎潮岬以西

- ・都井岬～室戸岬沖では、離岸傾向で推移するものの、一時的に接岸傾向となることがある。
- ・潮岬沖では、離岸傾向で推移する。

◎潮岬以東

- ・大蛇行が継続し、A型基調で推移する。
- ・蛇行北上部は概ね伊豆諸島海域の西側に位置し、熊野灘～遠州灘に近づくことがある。
- ・犬吠埼沖では、沿岸の冷水の分布に伴い離岸することがある。

(2) 薩南～房総海域

- ・潮岬以西は、一時的に黒潮系水が波及する。
- ・熊野灘～遠州灘～相模湾は、黒潮の接近や黒潮系水の波及に伴い暖水に覆われる。
- ・伊豆諸島海域は、概ね暖水に覆われる。
- ・房総沖は、黒潮からの暖水に覆われやすい。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・断続的に黒潮による暖水が波及する。

(4) 沿岸水温

- ・薩南～室戸岬は、「やや低め」～「やや高め」で推移する。
- ・紀伊水道外域では、「低め」～「平年並」で推移し、暖水波及時には「平年並」～「高め」となることがある。
- ・熊野灘～遠州灘～相模湾は、「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。
- ・伊豆諸島海域は、「やや高め」～「極めて高め」で推移するが、八丈島周辺では一時的に「低め」～「平年並」となることがある。
- ・房総海域～常磐南部海域は、「平年並」～「高め」で推移する。

※ 平年並＝平年値±0.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.0℃程度、
（高め、低め）＝平年値±1.5℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±2.5℃以上
（鹿島灘～常磐南部海域では、平年並＝平年値±1.5℃程度、（やや高め、やや低め）＝平年値±1.6～3.9℃程度、
（高め、低め）＝平年値±4.0～6.0℃程度、（極めて高め、極めて低め）＝平年値±6.1℃以上）

経過（2024年12月～2025年3月） （注：経過は図2を参照のこと）

(1) 黒潮

- ・ A型流路の大蛇行が継続した。
- ・ 12月下旬以降、蛇行部が西偏した。
- ・ 2月中旬、蛇行部から南側に冷水渦が切離した。
- ・ 3月上旬、南西に分布する切離渦と蛇行部が再結合した。

(2) 薩南～房総海域

◎薩南海域

- ・ 黒潮北縁は、12月は「接岸」、1～2月は「平均的な位置」で推移した。

◎潮岬以西

- ・ 都井岬沖では、期間を通じて離岸傾向で推移した。
- ・ 足摺岬～室戸岬沖では、「やや離岸」～「かなり離岸」で推移した。

◎潮岬以東

- ・ 2月中旬～3月上旬にかけて、黒潮屈曲部が熊野灘～遠州灘に接近した。
- ・ 駿河湾～相模湾では、断続的に暖水が波及した。
- ・ 黒潮は三宅島～御蔵島付近を北東～東向きに流れた。
- ・ 房総沖では、黒潮は1月中旬～下旬および2月下旬に一時的に離岸した。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 黒潮系暖水の影響が継続的にみられた。

現況 (2025年3月16日現在)

(1) 黒潮

- ・ A型流路であり、大蛇行が継続している。
- ・ 熊野灘沖で 30°N 付近まで南下した後、遠州灘沖を北上している。
- ・ 御蔵島付近を北東へ流れている。

(2) 薩南～房総海域

◎ 潮岬以西

- ・ 黒潮は、都井岬～潮岬沖で「著しく離岸」している。

◎ 潮岬以東

- ・ 熊野灘～遠州灘沖に、黒潮系暖水がみられる。
- ・ 伊豆諸島海域は、暖水に覆われている。
- ・ 房総沖で「かなり離岸」している。

(3) 鹿島灘～常磐南部海域

- ・ 黒潮系暖水の影響がみられる。

※ 黒潮の離接岸に関する語句表記は、川合英夫(1972)：海洋物理Ⅱ、東海大学出版会に準じた。

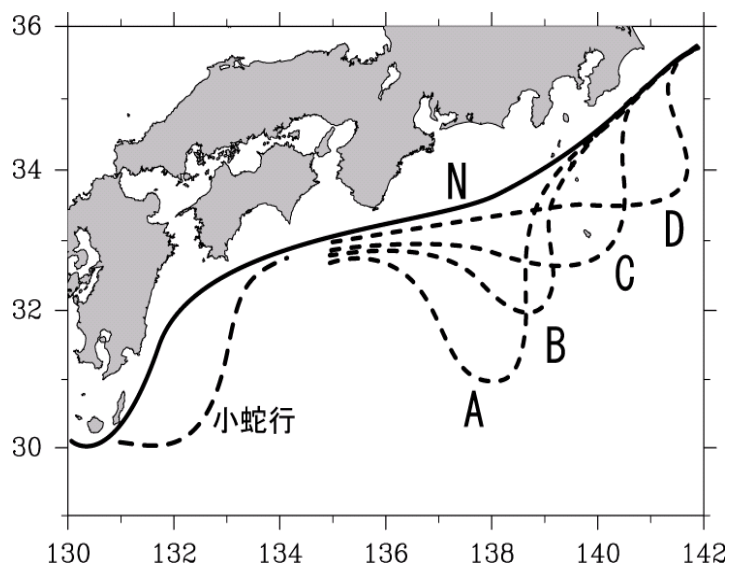


図1 黒潮流型の分類

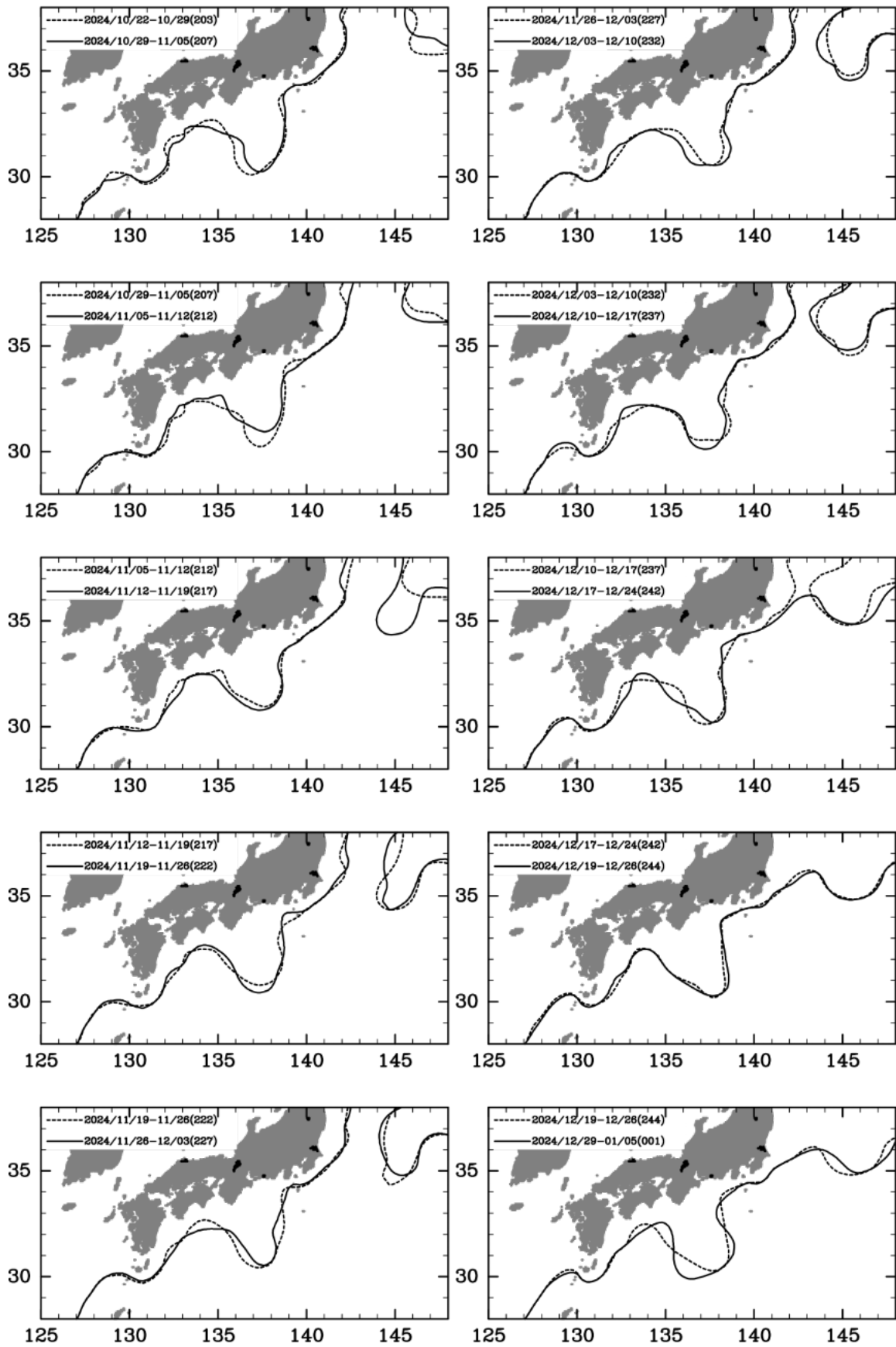


図2 黒潮流軸のパターン

(2024年10月～2024年12月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

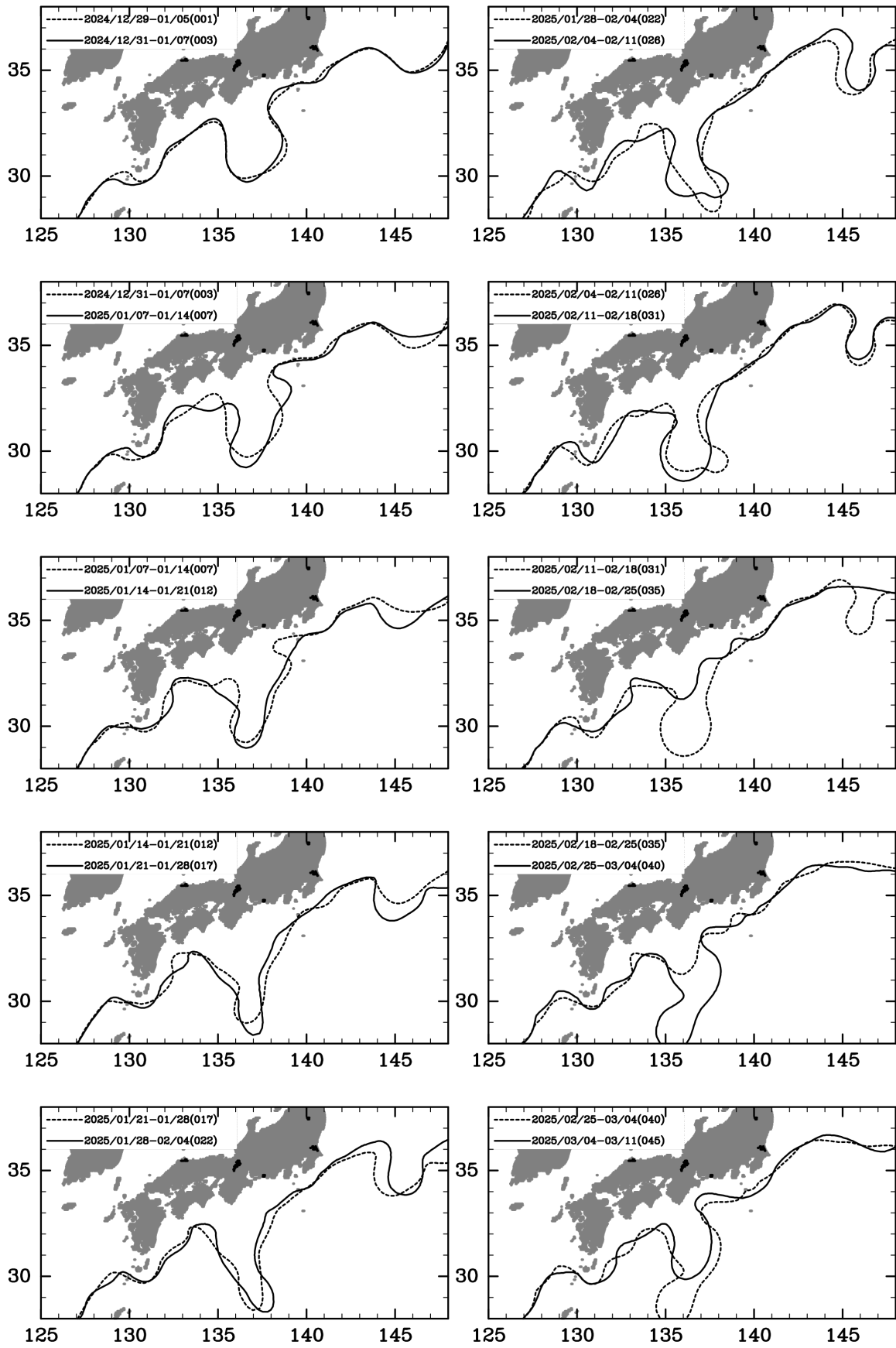


図2 (つづき) 黒潮流軸のパターン

(2025年1月～2025年3月、海上保安庁海洋情報部海洋速報より作成)

マイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2025年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2025年級群）、1歳魚（2024年級群）、2歳魚（2023年級群）、3歳魚（2022年級群）、4歳魚（2021年級群）、5歳以上（2020年級群以上）。年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 北薩～熊野灘（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩～薩南海域～豊後水道南部西側では前年並。豊後水道中南部東側では前年並～下回る。宿毛湾、土佐湾では低調であった前年並。紀伊水道外域西部では前年を下回る。紀伊水道外域東部～熊野灘では低調であった前年並。

(2) 漁期：豊後水道中南部東側では5月～7月、その他の海域は期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：北薩～日向灘では、期前半は15cm～18cm前後（1歳以上）、期後半は10cm前後（0歳魚）主体。豊後水道南部西側では、4月は15cm前後（1歳魚）主体、5月以降は10cm前後（0歳魚）主体。豊後水道中南部東側では、5cm～10cm前後（0歳魚）主体。宿毛湾～紀伊水道外域では12cm未満（0歳魚）および14cm以上（1歳以上）が漁獲される。熊野灘では14cm以上（1歳以上）主体。

2. 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：前年並。

(2) 漁期：伊勢・三河湾、渥美外海では6月以降に漁獲される。駿河湾、相模湾では期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：伊勢・三河湾、渥美外海では12cm未満（0歳魚）主体。駿河湾、相模湾西部では、12cm以下（0歳魚）主体に、13cm～17cm前後（1歳魚、2歳魚）が混じる。相模湾東部では期前半は15cm～20cm前後（1歳魚）主体、期後半は12cm以下（0歳魚）主体。

3. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：まき網は房総～三陸海域では前年並、道東海域では前年を下回る。定置網は前年並～上回る。

(2) 漁期・漁場：1 そうまきの漁場は、房総～三陸海域では4月～5月に犬吠埼沖～三陸南部海域、6月に犬吠埼沖～三陸北部海域、7月に三陸南部海域～三陸北部海域で形成され、道東海域では6月以降に形成される。2 そうまきの漁場は期を通じて房総海域に形成される。定置網は、仙台湾～三陸南部海域において、期を通じて入網がみられる。

(3) 魚体：13cm未満（0歳魚）、11cm～16cm前後（1歳魚）、15cm～18cm前後（2歳魚）、15cm～19cm前後（3歳魚）、16cm～20cm前後（4歳以上）。まき網では3歳以上主体。7月には房総海域において0歳魚も漁獲される。定置網では1歳魚～4歳魚主体。

漁況の経過（2024年12月～2025年2月）および見通し（2025年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

マイワシ太平洋系群の資源量は、1980年代は1,000万トン以上の高い水準で推移したが、1990年代に入って急減し、2002年以降2009年まで10万トン前後の低い水準で推移した。その後、比較的良好な加入が続いたこと、および漁獲圧が低下したことにより資源量は増加し、2020年には500万トンを上回った。しかしその後、加入量は減少傾向にあり、2023年の資源量は426万トンと推定された(2024年度資源評価)。

2020年級群(5歳)以上は、最近10年(以下、近年)において高い加入量の年級群で構成されている。2024年における4歳以上としての漁獲状況は前年並であった。5歳以上の推定残存資源量は前年を上回る。

2021年級群(4歳魚)は、加入量が752億尾と推定されており、2020年級群を下回る水準となっている。2024年における3歳魚としての漁獲状況は、前年を上回った。2021年級群の推定残存資源量は、2020年級群の同時期を下回っている。

2022年級群(3歳魚)は、加入量が606億尾と推定されており、2021年級群を下回る水準となっている。2024年における2歳魚としての漁獲状況は、前年を下回った。2022年級群の推定残存資源量は、2021年級群の同時期を下回っている。

2023年級群(2歳魚)は、加入量が351億尾と推定されており、2022年級群を下回る水準となっている。2024年における1歳魚としての漁獲状況は、前年を下回った。2023年級群の推定残存資源量は、2022年級群の同時期を下回っている。

2024年級群(1歳魚)は、2024年における0歳魚としての漁獲状況(主に西日本海域)は、前年と同程度であった。一方で、沖合域においては、5月～6月の移行域幼稚魚調査(水産資源研究所)において前年を下回るCPUE(Catch Per Unit Effort: 単位努力量当たり漁獲量)であったが、2024年6月～7月の北西太平洋北上期浮魚類資源調査(水産資源研究所)においては前年並のCPUEとなり、2024年9月～10月の北西太平洋秋季浮魚類資源調査(水産資源研究所)のCPUEは前年を上回った。現時点では不確実であるが、近年は沖合回遊群が資源の中心であることを踏まえ、2024年級群の加入量は前年並～上回る水準と考えられる。

2025年級群(0歳魚)については、現時点ではその水準を予測できない。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 北薩～熊野灘(まき網、定置網)

北薩～熊野灘での2024年12月～2025年2月の漁獲量は1,481トンと前年同期(15トン)を大きく上回った。北薩～薩南海域において前年を大きく上回ったものの、その他の海域では低調に推移した。(漁獲量は各地主要港水揚資料および水揚物標本測定結果等からの推定値)

・来遊量: 北薩～薩南海域では、4月は1歳魚～3歳魚(2024年級群～2022年級群)、5月以降は0歳魚(2025年級群)が漁獲の主体となる。3月上旬に長崎県海域からの南下群と考えられる産卵親魚のまとまった漁獲が見られたため、来遊量は好調であった前年並と予測される。

日向灘では、3月～4月は1歳以上、5月以降は0歳魚が漁獲の主体となる。本海域の上半期の漁獲動向

は前年下半期の三重県・高知県・鹿児島県のまき網漁獲量が指標となる。12月時点のこの指標値が前年を上回っていること、2月に北薩～薩南海域において漁獲が見られていることから、1歳以上は前年を上回ると予測される。一方、2024年12月以降、成魚の漁獲がほとんどなく、マシラスの漁獲も見られなかったことから、0歳魚の来遊は期待できない。以上のことから、今期の来遊量は前年並と予測される。

豊後水道南部西側では、4月は1歳魚が漁獲の主体となり、5月以降は0歳魚主体に1歳魚が混じる。2025年1月以降、本海域において漁獲が見られず、近隣の海域も同様に漁獲が低調であることから、今後とも来遊は期待できない。以上より、今期の来遊量は低調であった前年並と予測される。

豊後水道中南部東側では、0歳魚が漁獲の主体となる。2024年12月以降、産卵親魚になりうる個体の漁獲が見られなかったことから、今期の来遊量は前年並～下回ると予測される。

宿毛湾、土佐湾では、0歳魚および1歳以上が漁獲される。冬季の土佐湾におけるシラス漁の漁獲状況から、0歳魚の発生は前年を下回ると推測される。また、宿毛湾における中型まき網の漁獲状況から、1歳以上の来遊は前年同様に低調である。以上より、今期の来遊量は低調であった前年並と予測される。

紀伊水道外域西部では、0歳魚が漁獲の主体となる。近年の漁獲傾向から、来遊量は前年を下回ると予測される。

紀伊水道外域東部では、2025年1月～2月の1そうまきにおける漁獲はなく、近年の傾向からすると今期も来遊は見込めない。また、黒潮も引き続き離岸基調で推移すると予測され、マイワシ漁場の形成条件は悪いと考えられる。以上より、1歳以上の来遊量は低調であった前年並と予測される。

熊野灘では、1歳以上が漁獲の主体となる。2025年2月末時点で本海域への産卵親魚の来遊は見られていない。また、沿岸域の1歳魚についても、2024年秋季以降マイワシ主体の漁獲が見られていない。以上より、今期の来遊量は低調であった前年並と予測される。

・漁期：豊後水道中南部東側では5月～7月、その他の海域では期を通じて漁獲される。

・魚体：近年の出現状況から、北薩～日向灘では、期前半は15cm～18cm前後の1歳魚が、期後半は10cm前後の0歳魚が主体となる。豊後水道南部西側では、4月は15cm前後の1歳魚が主体となり、5月以降は10cm前後の0歳魚を主体に1歳魚が混じる。豊後水道中南部東側では、5cm～10cm前後の0歳魚が主体となる。宿毛湾～紀伊水道外域では、12cm未満の0歳魚および14cm以上の1歳以上が漁獲される。熊野灘では14cm以上の1歳以上が漁獲される。

(2) 伊勢・三河湾～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

伊勢・三河湾～相模湾での2024年12月～2025年2月の漁獲量は55トンと前年同期（3,246トン）を大きく下回った。

・来遊量：伊勢・三河湾、渥美外海では、0歳魚（2025年級群）が漁獲の主体となる。沿岸回遊群については前年と同程度の来遊は見込めるため、今期の来遊量は前年並と予測される。

駿河湾、相模湾西部では、0歳魚主体に、1歳魚（2024年級群）および2歳魚（2023年級群）が混じる。2024年12月～2025年2月の駿河湾および相模湾西部における産卵親魚の漁獲状況は前年を大きく下回っているが、2月下旬以降まとまった来遊があったことから、4月以降もまとまって漁獲されると予測される。0歳魚については、2024年12月～2025年1月に本海域においてマシラスが漁獲されていないこと、産

卵親魚が駿河湾以西に来遊していないことから、今後の来遊量は少ないと考えられる。以上より、今期の来遊量は前年並と予測される。

相模湾東部では、期の前半は1歳魚、2歳魚主体に、期の後半には0歳魚主体に漁獲される。黒潮流路変動により産卵親魚が伊豆諸島海域に来遊するようになったことから、期前半の漁獲量は近年高く推移している。一方、5月以降に来遊する0歳魚の資源水準は現時点では不明であるが、近年の傾向から本海域に来遊する量は少ないと考えられる。以上より、今期の来遊量は前年並と予測される。

- ・漁期：伊勢・三河湾では6月以降に漁獲される。駿河湾、相模湾では期を通じて漁獲される。
- ・魚体：近年の出現状況から、伊勢・三河湾では12 cm未満の0歳魚が主体となる。駿河湾、相模湾西部では、12 cm以下の0歳魚主体に、13 cm～17 cm前後の1歳魚、2歳魚が混じる。相模湾東部では期前半には15 cm～20 cm前後の1歳魚、2歳魚主体に、期後半には12 cm以下の0歳魚主体に漁獲される。

(3) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

房総以北のまき網での2024年12月～2025年2月の漁獲量は8.0万トンであり、前年同期（5.6万トン）を上回った。房総以北の定置網等での2024年12月～2025年2月の漁獲量は3.1万トンであり、前年同期（3.1万トン）と同程度であった。

- ・来遊量：各年級群の資源状態と近年の漁獲状況から、今期のまき網の漁獲対象は3歳（2022年級群）以上主体に1歳魚（2024年級群）、2歳魚（2023年級群）が混じる。また、7月には房総海域において0歳魚（2024年級群）も漁獲対象となる。定置網は1歳魚～4歳魚（2024年級群～2021年級群）主体に5歳魚（2020年級群）が混じる。

資源状態および漁獲状況を考慮し、漁獲の主体となる3歳以上の来遊量は前年並～下回ると予測される。2歳魚は加入量が前年を下回る水準であることから、来遊量は前年を下回ると予測される。1歳魚の来遊量は、現時点では不確実であるが、沖合域での調査結果から前年並～上回ると予測される。0歳魚の来遊量は、現時点での予測は困難である。一方、三陸海域では2025年2月以降、冷水が波及しており、今期は前年と比べて低い水温が継続する可能性があるため、前年より道東海域への北上回遊が遅れると考えられる。そのため、漁獲の主体となる3歳以上の来遊量および北上回遊の遅れを考慮し、房総～三陸海域では前年並となり、道東海域では前年を下回ると予測される。ただし、漁獲量はまき網の操業状況に左右される。なお、仙台湾～三陸南部海域の定置網では海洋環境も考慮して前年並～上回ると予測される。

- ・漁期・漁場：1 そうまきの漁場は、房総～三陸海域では、4月～5月は犬吠埼沖～三陸南部海域、6月に犬吠埼沖～三陸北部海域、7月に三陸南部海域～三陸北部海域で形成され、道東海域では6月以降に形成される。2 そうまきの漁場は、期を通じて房総海域に形成される。定置網は、仙台湾～三陸南部海域において、期を通じて入網がみられる。

- ・魚体：近年および直近の出現状況から、0歳魚は13 cm未満、1歳魚は11 cm～16 cm前後、2歳魚は15 cm～18 cm前後、3歳魚は15 cm～19 cm前後、4歳以上は16 cm～20 cm前後。

カタクチイワシ太平洋系群等の漁況予報

今後の見通し（2025年4月～7月）

対象海域：北薩～三陸海域、道東海域

対象漁業：まき網、定置網、船曳網

対象魚群：0歳魚（2025年級群）、1歳魚（2024年級群）、2歳（2023年級群）以上。

年初に加齢。魚体は被鱗体長。

1. 西薩～常磐南部海域のシラス（船曳網）

(1) 来遊量：西薩～土佐湾、紀伊水道外域東部、鹿島灘～常磐南部海域では予測が困難。紀伊水道外域西部では前年並～下回る。伊勢湾、渥美外海では前年並。遠州灘～駿河湾では前年を下回る。相模湾では前年並。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

2. 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：北薩、薩南海域では前年並。日向灘では前年を下回る。豊後水道南部西側、豊後水道東側では前年並～下回る。宿毛湾・土佐湾では前年を下回る。紀伊水道外域西部では前年並～上回る。紀伊水道外域東部では主たる漁獲対象ではない。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。

(3) 魚体：4 cm～11 cmの0歳魚、1歳魚主体。

3. 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

(1) 来遊量：熊野灘、駿河湾ではまとまった漁獲がない。伊勢・三河湾、相模湾では前年並。

(2) 漁期：期を通じて漁獲される。伊勢・三河湾では6月以降で、7月以降に本格化。

(3) 魚体：伊勢・三河湾では12 cm以下の1歳魚主体、相模湾では9 cm～12 cmの1歳魚主体。

4. 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

(1) 来遊量：房総海域では前年を上回る。常磐海域では予測が困難。三陸南部海域～仙台湾では前年を下回る。三陸北部海域ではまとまった漁獲がない。道東海域では主たる漁獲対象にはならない。

(2) 漁期・漁場：房総海域では2そうまきにより期を通じて漁獲される。三陸南部海域～仙台湾では定置網により6月以降に漁獲される。

(3) 魚体：9 cm～12 cm前後の1歳魚主体に、12 cm前後の2歳以上も漁獲される。

漁況の経過（2024年12月～2025年2月）および見通し（2025年4月～7月）についての説明

1. 資源状態

カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2002年の291万トンピークに減少傾向に転じ、2018年に9.3万トンの最小値となった後、増加に転じて2023年は26.2万トンと推定された（2024年度資源評価）。資源動向は親魚量の最近5カ年の推移から増加傾向である。本系群は漁場が形成される沿岸域だけでなく、資源状態に応じて黒潮親潮移行域まで広く分布する。

2024年度資源評価に基づくと、2023年級群（2歳魚）の加入量は300億尾と推定され、2022年級群の

加入量を上回った。2024年における1歳魚としての漁獲状況は前年を上回った。これらのことから、2023年級群の残存資源量は、2022年級群を上回る水準であると推測される。

2024年級群（1歳魚）は、シラスや0歳魚として主産卵場である東海海域を中心に7月以降に漁獲され、2024年のその漁獲量は前年並であった。水産資源研究所が実施した沖合域の調査船調査では、2024年6月、7月における北西太平洋北上期浮魚類資源調査（以降、北上期調査）の推定0歳魚のCPUE（全測点の平均CPUEで速報値。以下同様）は前年を上回ったが低水準であった。このことから、2024年級群は2023年級群と同程度の加入量であり、残存資源量も同程度の水準であると推測される。

2025年級群（0歳魚）は、現時点でその水準を予測することは難しい。

2. 来遊量、漁期・漁場、魚体

(1) 西薩～常磐南部海域のシラス（船曳網）

・来遊量：西薩～土佐湾および紀伊水道外域東部では、シラスの来遊量については予測が困難である。

紀伊水道外域西部では、春シラスは海部沿岸で産卵、孵化し、紀伊水道内に流入した個体を漁獲することになる。海部沿岸のカタクチイワシ成魚の漁獲量は増加しているが、黒潮が四国沖から離岸しており、紀伊水道内への流入が期待できないことから、今期の来遊量は前年並～下回ると予測される。

伊勢湾、渥美外海では、期を通じて漁獲され、5月以降に本格化する。マイワシ親魚の西日本への回遊が少ないことから、マイワシシラスの来遊量は低調であった前年並と推測される。カタクチイワシの沖合回遊群も来遊は低調であるため、外海からの来遊の急増は期待できないが、内湾における禁漁によって産卵水準を維持できれば内湾からの供給が期待できる。渥美外海における漁場の形成状況は、黒潮の北上流の位置に左右されるが、北上流の位置は不安定であると推測されるため、今期の来遊量は前年並と予測される。

遠州灘～駿河湾では、近年、マイワシシラスは3月～5月に漁獲されており、静岡県で水揚げされるマイワシシラスの親魚は産卵南下群と推察される。三重県熊野灘のまき網において2月～3月のマイワシ水揚量が多い年は、3月～5月のマイワシシラス水揚量が多い傾向がある。2025年2月～3月は熊野灘でマイワシの漁獲がほとんどなく、産卵親魚が熊野灘まで南下回遊していないため、マイワシシラスの来遊量は低調であった前年並と予測される。3月～5月のカタクチシラス水揚量は、シラスの補給源となる静岡県以西（黒潮上流域）のカタクチイワシ親魚量の影響を受けると推察される。2024年12月以降の静岡県以西のカタクチイワシ水揚量は前年同様に低調である。また、黒潮流路が遠州灘に接近するとシラスが不漁となる傾向がある。3月下旬以降は2023年と同様に黒潮流路が遠州灘に近づくと予測されている。以上のことから、カタクチシラスの来遊量は前年を下回ると予測される。シラス全体としては、前年を下回ると予測される。6月以降の予測は現時点では困難である。

相模湾では、期を通じて漁獲される。親魚資源であるカタクチイワシ太平洋系群は依然低水準であり、神奈川県沿岸におけるカタクチイワシ漁獲量も2018年以降は低水準である。また、黒潮大蛇行の継続が予測されている。以上のことから、親魚資源量や海洋環境は大きくは変わらないため、今期の来遊量は前年並と予測される。

鹿島灘～常磐南部海域では、4月～5月の漁況は、黒潮の影響により暖かい海況が続く見込みであること、

2025年2月の卵稚仔調査でカタクチイワシ卵が採集されていること、2014年以降の春シラスの水揚量が11年連続で1000トンを超えていることなどから、今後、卵・仔魚の供給が順調なら期待はできる。ただし、2025年の本海域の海況は、黒潮北偏傾向が弱まり、過去2年間に比べて水温が低い傾向にあるため、盛漁期は遅延する可能性がある。なお、例年シラスが安定的に獲れたす6月～7月の漁況は現時点では予測できない。これらのことから、来遊量の予測は困難である。

- ・漁期：期を通じて漁獲される。

(2) 北薩～紀伊水道外域（まき網、定置網）

- ・来遊量：北薩、薩南海域では、今期の漁獲主体となる1歳魚（2024年級群）は、まき網、棒受網ともに前年を下回る漁獲量であることから、来遊量は低調であった前年並と予測される。

日向灘では、2月～5月は、足摺岬以東由来と考えられる大型成魚群の来遊が漁獲の好不調を左右し、夏秋季は、被鱗体長10cm～11cm台主体の沿岸加入群が漁獲の主体となる。近年、大型成魚の来遊はほとんど見られず、今期も漁獲の主体となる可能性は低い。沿岸加入群の漁獲動向は、日向灘および周辺海域における秋季のシラス漁獲量をもとに予測しており、2024年12月の時点でどの海域も低調であったため、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

豊後水道南部西側では、例年、4月～6月は0歳魚（2025年級群）、1歳魚が主体となる。2024年11月以降はまき網による水揚げがない状態が続いており、1歳魚の来遊量は低調になると推測される。2024年のまき網水揚量は2023年を下回っていることから、来遊量は前年並～下回ると予測される。

豊後水道東側では、期を通じて体長4cm～10cmの1歳魚主体に漁獲される。2024年12月～2025年2月の2024年級群主体の漁獲量は、時化の影響もあって前年同期を下回り、2024年6月～7月が好調であったことから推察すると、今期の来遊量は前年並～下回ると予測される。

宿毛湾、土佐湾では、期を通じて0歳魚、1歳以上が漁獲される。4月～7月の宿毛湾中型まき網水揚量と前年10月～12月の宿毛湾中型まき網及び日向灘まき網の水揚量合計の間には弱い正の関係が見られ、この関係式から予測される水揚量が前年同期を下回ることから、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

紀伊水道外域西部では、期を通じて定置網により0歳魚が混獲される。前年同期の漁況は好調であったことから、今期の来遊量は前年並～上回ると予測される。

紀伊水道外域東部では、未成魚・成魚は主たる漁獲対象ではない。

- ・漁期：期を通じて漁獲される。
- ・魚体：4cm～11cmの0歳魚、1歳魚主体。

(3) 熊野灘～相模湾（まき網、定置網、船曳網）

- ・来遊量：熊野灘では、冬季に来遊する魚群は、前年夏秋季の漁獲対象とは異なり、黒潮親潮移行域から大規模回遊を行う群と考えられ、漁獲動向も前年の熊野灘とは連動しない。2024年の北上期調査によると、推定0歳魚（2024年級群）のCPUEは前年を上回ったが、依然として低水準となっており、2月末時点で本海域へのまとまった来遊は見られていない。このため、今期の来遊量は極めて少なく、ほとんど漁獲されないと予測される。

伊勢・三河湾では、漁期は6月以降で、7月以降に本格化して、1歳魚（2024年級群）が主な漁獲対象となる。カタクチイワシ太平洋系群が低水準のため、愛知県沿岸部および内湾への来遊量の急増は見込めないが、来遊量に応じて、漁期開始を調節することで、前年並の漁獲が見込める。今期の来遊量は、2024年冬季のシラスが豊漁であったことから、前年並と予測される。

相模湾西部では、近年の傾向から、期を通じて体長12 cm以下の1歳魚主体に、定置網により他魚種に混ざって漁獲される。資源評価では、1歳魚は前年に引き続き低水準と推定されていることから、今期の来遊量は低調であった前年並と予測される。

相模湾東部では、期を通じて体長9 cm～12 cmの1歳魚主体に漁獲される。カタクチイワシ太平洋系群は依然として低水準であり、黒潮大蛇行が継続している2018年以降の相模湾主要定置網の4月～7月の漁獲量は、2017年以前と比べ明瞭に低下している。今期も黒潮大蛇行が継続すると予測されていることから、不漁傾向も継続すると推測される。以上のことから、今期の来遊量は前年並と予測される。

- ・漁期：期を通じて漁獲される。伊勢・三河湾では6月以降で、7月以降に本格化する。
- ・魚体：伊勢・三河湾では12 cm以下の1歳魚主体、相模湾では9 cm～12 cmの1歳魚主体に漁獲される。

(4) 房総～三陸海域、道東海域（まき網、定置網）

・来遊量：房総海域では、犬吠埼沖～九十九里沖において、期を通じて体長9 cm～12 cmの1歳魚（2024年級群）主体に漁獲される。5ヵ年平均を上回る水揚量となった2023年と2024年の4月～8月は、北上過程の1歳魚主体の群が来遊したためと推察される。一方で、両年の12月～翌年3月の体長組成を考慮すると、この沿岸北上群は南下過程ではほとんど漁獲されなかったと推測される。2025年2月の漁獲主体は南下過程と推測される1歳魚であり、その水揚量は前年を上回ったが、漁場形成は散発的であった（まとまった漁獲となっても数日で魚群がいなくなった）。近年は12月～翌年3月の南下過程では房総海域を短期間で通過してしまい漁獲対象となりにくく、北上過程の4月～8月では房総海域に断続的に来遊して、漁獲対象となりやすくなっていると推察される。ただし、南下過程にあたる2024年12月～2025年3月（3月11日時点）の水揚量は前年同期を上回っていることに加え、2025年1月～6月の房総海域の海洋環境は黒潮からの暖水の影響を受けやすいと予測されていることから（令和6年度第2回長期漁海況予報）、近年と同様の海洋環境になると推測される。以上のことから、1歳魚の来遊量は前年を上回ると予測される。2歳（2023年級群）以上は、2025年2月には漁獲主体とはならなかったものの、水揚量は前年を上回った。このことから、2歳以上の来遊量は前年を上回ると予測される。全体として、1歳魚の来遊量を反映して、今期の来遊量は前年を上回ると予測される。

常磐海域では、2017年3月以降、茨城県での水揚げがないこと、1そうまきは、周年、サバ類やマイワシを漁獲対象とすることから、来遊量の予測は困難である。

三陸南部海域～仙台湾では、6月以降に、定置網により体長9 cm～12 cm前後の1歳魚、2歳魚が主体に漁獲される。前年同期は黒潮続流が北偏し宮城県沿岸は高水温に覆われたため、期を通じて水揚げが継続したが、2025年2月からは冷水が波及し、5月初旬までは前年よりも低水温で推移するとFRA-ROMSIIにより予測されていることから、初漁期は北上群が来遊する6月以降と推測される。千葉県2そうまきでは、2025年2月以降の漁獲が好調であるため、6月～7月に宮城県沿岸に来遊する北上群は前年並～上回る水準

と予測される。一方で、4月～5月は水揚げがないと推測されることから、全体として、今期の来遊量は前年を下回ると予測される。

三陸北部海域では、漁業情報から、まとまった漁獲がない。

道東海域では、釧路水産試験場が実施した調査船調査の結果から、カタクチイワシの来遊量が増加傾向にあると推察されるため、予測対象期間内に来遊する可能性はある。一方、小型浮魚類を対象とした漁業では、カタクチイワシではなくマイワシが主な漁獲対象になると推測される。したがって、予測対象期間にカタクチイワシを対象とした漁獲が行われる可能性は低い。

・漁期・漁場：房総海域では2 そうまきにより期を通じて漁獲される。三陸南部海域～仙台湾では定置網により6月以降に漁獲される。

・魚体：9 cm～12 cm 前後の1歳魚主体に、12 cm 前後の2歳以上も漁獲される。

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 函館水産試験場	地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産研究部 水産技術センター
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	和歌山県水産試験場
岩手県水産技術センター	徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課
宮城県水産技術総合センター	高知県水産試験場
福島県水産海洋研究センター	愛媛県農林水産研究所 水産研究センター
茨城県水産試験場	大分県農林水産研究指導センター 水産研究部
千葉県水産総合研究センター	宮崎県水産試験場
東京都島しょ農林水産総合センター	鹿児島県水産技術開発センター
神奈川県水産技術センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
静岡県水産・海洋技術研究所	(取りまとめ機関) 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所
愛知県水産試験場 漁業生産研究所	
三重県水産研究所	